

美 し い 山 河 を 守 る  
災 害 復 旧 基 本 方 針

平成 30 年 6 月

## 「美しい山河を守る災害復旧基本方針」の改定にあたって

平成9年に河川環境の整備と保全を河川管理の目的に位置付けた「河川法」の改正が行われたことから、平成10年6月に「美しい山河を守る災害復旧基本方針」（以下、「本基本方針」という。）を策定し、河川環境の保全に配慮した災害復旧に努めてきた。その後、現場に対する護岸工法に関する内容の充実、災害復旧の流れに沿った内容の再構成を図り平成18年6月に本基本方針の改定を行った。全ての河川における川づくりの基本として、河川が本来有している生物の生息・成育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するための、河川管理を行うことを示した「多自然川づくりの基本指針」が平成18年10月に定められ、平成20年3月には中小河川の川づくりの具体的な技術基準として「中小河川に関する河道計画の技術基準」が示された（平成22年8月改訂）。さらに、平成23年10月には、「中小河川に関する河道計画の技術基準」を解説する「多自然川づくりポイントブックⅢ～川の営みを活かした川づくり」が作成され、主に中小河川を対象とした多自然川づくりの基本的な留意事項や河道の法線・縦横断形、河岸・水際部の計画手法などが示された。このような経緯を踏まえ、平成26年3月には災害復旧における工法選定の考え方、各工法の留意事項等の充実を図り、本基本方針の改定を行った。

一方、近年頻発する水災害に対して河川の改良を行い、再度災害を防止する改良復旧事業等が採択され、事業が実施されるケースが増えつつある。改良復旧事業等については、平成17年度に「多自然川づくりアドバイザーリスト制度」が設けられ、復旧方法に関する技術指導を直接行ってきているところである。しかし、復旧現場に携わる技術者が、多自然川づくりという視点を踏まえ円滑に改良復旧計画を立案するための指針等がなかったため、この度、本基本方針の「3. 改良復旧事業」を追加し、本基本方針の充実を図った。また、平成26年3月の改定からおよそ4年が経過し、当時の改定から修正・加筆すべき事項が明らかになってきたことを踏まえ、「2. 災害復旧事業」の内容の変更を行った。災害復旧に当たっては、本基本方針を活用して頂き、現場でより良い災害復旧が進められることを期待している。

なお、本基本方針の改定に当たっては、国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室並びに国立研究開発法人土木研究所河川生態チーム・自然共生研究センターに多大なる協力を頂いた。ここに感謝の意を表す。

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課

主な改定点は以下のとおりである。

1. 「改良復旧事業」の章立てを追加

● 改良復旧事業のポイントを明示

「日常からの備え」、「広い視野、長期的視点」、「関係他事業との調整」といった改良復旧事業ならではの観点を盛り込んだ。また、多自然川づくりを基本とし、河川環境の保全、維持管理の視点、流下土砂、流木に対する視点を踏まえること等を明示した。

● 河川特性・被災状況の把握、環境特性の把握を明示

河川特性・被災状況の把握、環境特性の把握を行う上で収集すべき資料を明確にした。これらの資料は「多自然川づくりアドバイザー制度」における技術支援においても活用するため、アドバイザーの支援要請を行う場合には参考にするとよい。

● 河道計画の基本方針の策定、具体的な計画手法を明示

把握した河川特性・被災状況、環境特性から河道計画の基本方針を策定する方法、多自然川づくりを基礎として河道計画手法を明示した。河道計画手法では河積の確保を行う場合には拡幅を基本とすること、河床掘削が避けられない場合の検討手順等を明示した。

2. 災害復旧箇所河川特性整理表（A表）の簡素化

大規模災害発生時においても被災箇所毎に数多くのA表、B表の作成が求められており、現場の負担になっていた。このため、一定条件下で記載や作成を省略してもよいこととした。

3. その他

● 災害復旧工法に関する代表的な事例を追加

本基本方針に基づき復旧を行う際に参考となる代表的な事例を収集・整理し、これを紹介した。

● テクスチャーの評価方法に関する技術情報を追加

平成26年3月改訂版では法覆工（コンクリートブロック）を用いる場合には幾つかの留意事項を明確にし、特に、明度に関しては具体的な測定方法を技術情報として記載していた。今回の改定（平成30年度版）では、これに加えて、テクスチャーに関する測定方法を追加した。なお、本測定方法は国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センターと公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会との共同研究により開発したものである。

## 美しい山河を守る災害復旧基本方針 目次

<b>1. 総論</b>	<b>1</b>
1.1 本資料の位置付け .....	1
1.2 災害復旧の基本的な考え方 .....	5
<b>2. 災害復旧事業</b>	<b>15</b>
2.1 基本的な考え方 .....	15
2.2 河川における災害復旧事業のポイント .....	17
2.3 復旧工法検討の流れ .....	20
2.4 河川・環境特性及び被災原因の把握等 .....	22
2.4.1 河川特性・環境特性の把握 .....	23
2.4.2 被災原因の分析 .....	24
2.4.3 河川環境の把握 .....	33
2.4.4 周辺環境の確認と重点箇所の判定 .....	39
2.4.5 申請書類の作成 .....	43
2.5 護岸工法 .....	50
2.5.1 護岸工法の考え方 .....	50
2.5.2 法覆工 .....	63
2.5.3 基礎工 .....	115
2.5.4 根固工 .....	116
2.5.5 根継工 .....	120
2.5.6 天端工・天端保護工、小口止め、水抜きパイプ等の付帯工 .....	122
2.5.7 覆土・寄石 .....	128
2.5.8 申請工法概要の記入とチェックリストの活用 .....	134
2.6 水制 .....	135
2.7 床止め .....	137
2.8 施工及びフォローアップ .....	140
2.8.1 施工時の留意点 .....	140
2.8.2 施工時に期待される工夫 .....	141
2.8.3 フォローアップ(施工後のチェック、モニタリング) .....	143
<b>3. 改良復旧事業</b>	<b>145</b>
3.1 改良復旧事業のポイント .....	145
3.2 改良復旧事業の検討の流れ .....	149
3.3 河川・環境特性及び被災原因の把握等 .....	153
3.3.1 河川特性・被災状況の把握 .....	153
3.3.2 被災原因の分析 .....	162
3.3.3 環境特性の把握 .....	164
3.4 改良計画区間および改良計画流量の設定 .....	179
3.4.1 改良計画区間の設定 .....	179
3.4.2 改良計画流量の設定 .....	180
3.5 河道計画の考え方 .....	182
3.5.1 河道計画の基本的考え方 .....	182
3.5.2 河道計画の基本方針の策定 .....	183
3.5.3 河道計画の検討 .....	186
3.6 河畔樹木に関する基本的な考え方 .....	202
3.7 設計・施工・維持管理上の問題点(課題)チェック .....	204
3.8 改良復旧計画書の作成 .....	205
3.9 施工及びフォローアップ .....	206
3.9.1 施工時の留意点 .....	206
3.9.2 フォローアップ(施工後のチェック、モニタリング) .....	206